

「ダリアの世界展」の開催について

濱谷修一・信太千帆

平成25年10月5日から17日の13日間、本園としては初めてダリアに特化した展示会を開催したので、その概要を記録する。

きっかけ

本園では、例年10月の上～中旬の間の約10日間、「秋のグリーンフェア」と名付けた大型イベントを開催する。この期間には、展示温室において「サボテン展」または「薬用植物展」のいずれかが開催されているというのが通例であったが、平成25年度はこれらの展示会がこの期間に開催される予定になっていなかった。そこで、近年人気が再燃しているダリアの展示を行い、秋のグリーンフェア期間中の目玉となる植物展示を増やそうということになった。

展示の準備

展示は、以下の4コーナーから構成することとして準備を開始した。

- ・切り花（一輪挿し）を使ったダリアの様々な花型の紹介
- ・ダリアの鉢植えやダリア以外の植物と組み合わせた庭飾りの提案
- ・切り花や矮性品種の鉢植えを用いた室内装飾の提案
- ・パネルを使った解説（分類、形態、歴史、生理、栽培方法、観光地紹介など）

なお、本園では、これまで小規模な栽培しかしていなかったため、手持ちのダリアの株が不足し、十分な展示をすることができないと考えられたため、西日本では有数の規模を誇る世羅高

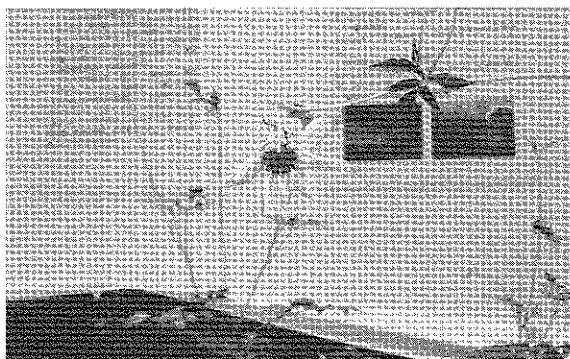


写真2. 種子交換で導入したDahlia merckii

原農場に協力を依頼した。

栽培

種子系品種（数品種）および種子交換で入手した野生種（*D. coccinea*と*D. merckii*）を4月中旬に播種した。発芽後は3号ポットから5号鉢へと順次鉢増しを行った。

栄養系品種（主に中～大輪系）の球根を6月20日頃入手し、10号鉢で栽培した。植え付け時に芽が伸びていたものは3節程度残して摘心して植え付け、あまり伸びていなかったものはそのまま植えた。5～6節展葉した時点で摘心した。

切り花については、展示直前に世羅高原農場から購入した。

展示

ダリアの切り花の花保ちは良い品種でも1週間程度、悪い品種だと3日間程度のため、期間中に一度、全面的に入れ替えを行った。

切り花を使った様々な花型の紹介では、32品種の切り花をシンプルなガラスの瓶に挿して展示したが、鮮やかな花色が良く目立ち、また、同じ飾り方で並んでいるため花の大きさや形の違いなどが一目でわかり、来場された方が最も喜んでおられたように見受けられた。

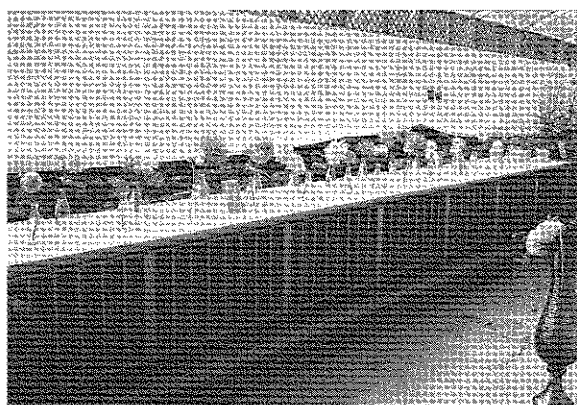


写真1. 切り花を使った花型の紹介



写真3. 鉢植えを使った展示

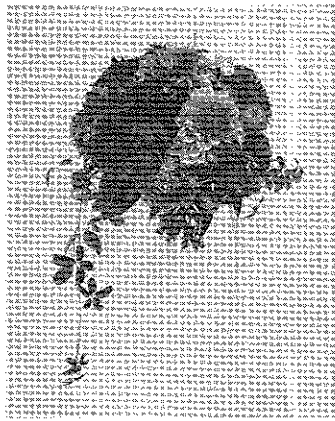


写真4. ブーケ

鉢植えを使った「庭飾り」では、展示開始の10月5日の時点で開花している株（10号鉢）がほとんどなかったため、つぼみの状態で展示し、切り花を賑やかに使用した。開花した矮性品種（実生系）やダリア以外の草花を足元のいどりに使用した。当初、バラの鉢植えも使う予定だったが、並べるとダリアがバラに負けてしまったので、バラを使うことは断念した。10月11日から（後半）は開花した鉢が約10品種15鉢程度に増えたので、このコーナーに使う切り花は少なくした。それなりに賑やかにはなったが、当初描いていた「庭飾り」のイメージを作り出すことはできなかった。

室内装飾の提案では、矮性品種の鉢植えは使わず、切り花だけの装飾となったが、器をうまくつけたアレンジや、ブーケ、バスケット、リースなどいろいろな提案ができたと思う。また、ダリアの葉の形の多様性を紹介するために、スキャンした葉の画像を切り抜いてラミネート加工したものを飾ったが、展示作品としても十分に観賞に耐えるものであった。

パネルを使った解説は、特段目新しい情報もなく、ありふれたものとなってしまったが、基本的な情報を提供するという意味で、植物公園で展示する際には必要不可欠なものである。ダリ

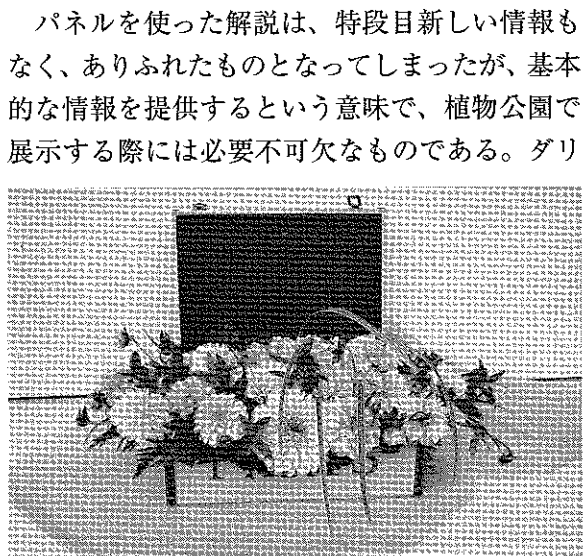


写真6. アタッシュケース状の箱を使ったアレンジ

鉢植えを使った「庭飾り」では、展示開始の10月5日の時点で開花している株（10号鉢）がほとんどなかったため、つぼみの状態で展示し、切り花を賑やかに使用した。開花した矮性品種（実生系）やダリア以外の草花を足元のいどりに使用した。当初、バラの鉢植えも使う予定だったが、並べるとダリアがバラに負けてしまったので、バラを使うことは断念した。10月11日から（後半）は開花した鉢が約10品種15鉢程度に増えたので、このコーナーに使う切り花は少なくした。それなりに賑やかにはなったが、当初描いていた「庭飾り」のイメージを作り出すことはできなかった。

室内装飾の提案では、矮性品種の鉢植えは使わず、切り花だけの装飾となったが、器をうまくつけたアレンジや、ブーケ、バスケット、リースなどいろいろな提案ができたと思う。また、ダリアの葉の形の多様性を紹介するために、スキャンした葉の画像を切り抜いてラミネート加工したものを飾ったが、展示作品としても十分に観賞に耐えるものであった。

パネルを使った解説は、特段目新しい情報もなく、ありふれたものとなってしまったが、基本的な情報を提供するという意味で、植物公園で展示する際には必要不可欠なものである。ダリ

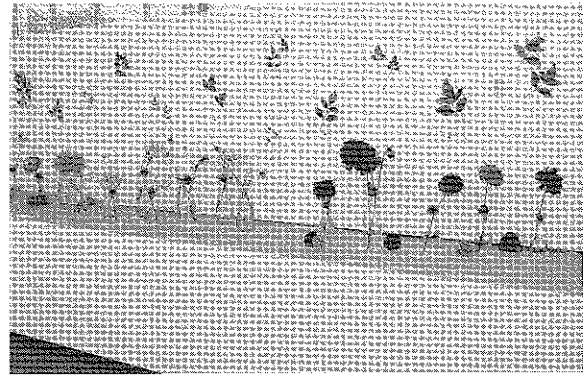


写真7. 葉をスキャンした画像と切り花

アの観光地紹介として、今回は世羅高原農場だけを取り上げたが、将来的にはいろいろな施設と連携をとればもっとイベントが盛り上がるであろう。



写真8. 世羅高原農場紹介コーナー

本園として初めてのダリアの本格的な展示会ということもあってか、新聞2社、テレビ1社の取材があった。その効果で、報道を見て来園されたという方が多数おられた。なお、この展示は切り花が主体であり、また、期間中に展示品を大幅に入れ替えるという性格上、特定の品種を前面に出して紹介することが困難であった。担当者としては「珍しい品種」ではなく、「目新しいダリアの楽しみ方」や「ダリアの多彩さ」を強くアピールしたかったのであるが、記者にうまく伝えることができず、結局のところ「どの品種が珍しいのか」という質問に至らせてしまったのが非常に残念であった。

謝辞

農事組合法人世羅高原農場の方々には、観光シーズンの忙しい中、球根の選別や切り花の準備をしていただき、また、栽培や展示方法等のアドバイスをいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。